

## 第1回 小学校再編に関する地域住民説明会（小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月23日（月） 19時開始
- 場 所 : 小松島小学校 2階 生活室
- 参 加 者 : 20名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他9名  
（事務局）
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6.質疑・応答（意見交換）  
7.閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○どこを統合するというのは決まっているのではないか。

→（回答）

今教育委員会では、それらに対して案はまだ持っていない。これから御意見をいただき、「実施計画」の中で決めていく過程にある。

○本当に皆さんの意見を取り入れてくれるのか。

→（回答）

いろいろな地域の方からいろいろな御意見というのがあると思うが、子どもさんの将来のことを考えていくということで、まず、実態として11を「3程度」にするということで8つの地域では学校がなくなるという所が当然出てくることなので、各地域に学校を残して欲しいという御意見が、11校区だと多々出てくると思う。それに対して100%お答えすることは難しいということが結果としては出てこようかと思うが、そのような中で学校再編を前向きに進めていかなければいけないが、地域的な分に対してはどういった御意見がいただけるのかなあというところを前提に御意見等をいただけるとありがたい。

○3校にするというのは大体決まっているのか。

→ (回答)

3校というのはあくまでも「程度」表示。1つの学校で1つの学年を2クラス維持するためには3校程度必要となってくる。校数が増えると一つの学校規模は小さくなってしまうというようなことも踏まえて決めざるを得ないのかなあと思う。

○この資料は先生方が作った資料なのか。

→ (回答)

学校の先生だけでなく、行政の人間も教育委員会の中で、まずはいろいろ議論しながら作った。結果としてお示しをしたような基本的な方針の7項目の原案は教育委員会で作ったが、それに対して有識者の中でもいろいろな方々から御意見をいただいた。

○11 小学校のうち市が所有している土地は何箇所あるのか。

→ (回答)

大体市が直接持っている土地は多いのは確かだが、全部ではない。地域の方から借地をしているものも何校かはある。

○それはどこなのか。

→ (回答)

小松島小学校であったり、立江小学校であったり。何校かはある。

○廃校となった土地は返還するということか。

→ (回答)

そのことについて決まっていない。学校がなくなった場合、市が買い取るとか、社会体育施設としての利用状況もあるので引き続き借りるのか、相談していくこととなる。

○小松島に現在住んでいる人の1軒1軒の実態調査をしたことがあるか、する予定は。

→ (回答)

全てを網羅して調査をする必要もあると思うが、委員会が全てを調査するというのは厳しいものがある。できるだけ意見を踏まえる中で、学校がどのようにあるべきか、ということを考えていきたいと思うが、そのような具体的な調査は考えてはいない。

○若い人が、小松島に安心していられるような市政でやっていかなければ、小松島に住む人が減っていつてしまう。小松島に住もうと思えるような前向きな話にしていけないと。

→ (回答)

学校再編により新しい学校を作り、教育の充実を図っていくことにより、新しい学校にたくさん来ていただいて、ひいてはそれが小松島の活性化となるように。新しい学校と地域が

連携し、将来の小松島の地域作りにつなげていかなければならないと思っている。

○生徒数の少なくなっている学校から徐々に再編にかかり、2030年には3校ができあがっているのか。

→ (回答)

2030年までの再編完了に向けて動いていきたい。子どもの負担を考えると、少なくなっていく所から段階的にというのは考えていない。

○1クラス35名の根拠を教えてください。

→ (回答)

小学校の学校編成基準という国で決めているものがあり、同学年の児童で編成する学級は1学級上限が40人となっている。徳島県の教育委員会では上限を1学級35人としているので、36人になると2クラス(1クラス18人)になる。基本計画の中では1クラス18人以上は保てるような学級編成をして2クラスにしていきたいと考えている。

○まだはっきり校区については決まってないという話だが、校区で割るのか、地図上で割るのか、具体的なことをもう少し聞かせてもらえたら。

→ (回答)

「基本方針」にもあるが、「学校単位の再編」を考えている。最終的な学校の校数、場所、いつということは皆さんから御意見をいただいて、これから「実施計画(案)」の中で決めていく。

○有識者会議にはどのような方がいたのか。

→ (回答)

12名の委員。保育所・幼稚園の保護者代表の方、小学校PTA代表の方、学校の教員、公民館代表の方、民生児童委員も含めた地域の代表の方、市民からの公募、大学の先生。

○市政の中に入ってもう少し広く意見を聞いていく、という形はやらないのか。

→ (回答)

市政の中でという話になると役所の中の行政にはいろいろな施策がある。それができてなかったら学校再編はできないのか、というのでは少し観点が違うところがある。このような形で「基本計画(案)」をお示しさせていただいて、今のスケジュールでいうと来年度には「実施計画(案)」をお示しさせていただくことが、行政を含めた考え方になっていく。

○10年もかけなくても、2、3年でやれるのではないか。

→ (回答)

保護者・地域の方は今後どうなるのかという思いがあるので、そこに向けては「基本計画（案）」の考え方をまず御理解していただき、それから次の再編について考えていく。これからの子どもたちのことを考え、再編の必要性の理解をお願いしたい。

○「実施計画（案）」が出たら、またこういう会を開くのか。

→（回答）

来年、「実施計画（案）」ができれば、説明会を開催していきたいと考えている。

○3年ほど前に5校5園というのがあって、どことどこが一緒になりますというのがあったが、それはなくなってしまった。そのことについての保護者に対する説明がなかった。子どもの人数が減り、3校にするというのはやむを得ない話で仕方ない、というのが多分みんな思っているが、なくなった理由もお聞きしたいと思う。

→（回答）

平成24年8月に再編計画を作っていて、その時は将来の子どもの人数の予測など具体的な数字を持っていなかった。昨年に有識者会議で新しく改めて学校再編を議論していく中で、メディアにも前の学校再編についてした時に将来の子どもの数も置いてなくてしていたのか、ということは叩かれた。ここ何年間かの中に各市町村の人口の推移について、議論として出始めた。そこで改めて学校再編をするにあたっては、児童数の推計をする中で学校再編の数とか、クラス数の確保をやりたいなあというのがあった。そのようなことを踏まえて原案づくりの為に有識者会議でいろいろな方から「基本計画（案）」に御意見をいただいて現在に至っている。経緯やこれから先というのはいく少し踏み込んで、いろいろな形で速やかに出せる情報は出して、意見交換なりをしていきたい。

○有識者会議を傍聴させていただいたが、その時の資料で、校区をどのようにまとめたら、どのようなクラス編成になるのか、何人ぐらいになるのか、というのがあった。その資料が今日ないのは何故か。

→（回答）

有識者会議の中で委員の中から学校単位でどことどこが一緒になったらどうなるのかという意見があったので、3校程度ならこういう考え方ができますよという形でお出しした。一般市民の方に議論していただく中で、あのような議論はもう少し先にあるのではないかと思う。今回の説明会においては、その有識者会議を踏まえてできあがった状態でこのような形になっているというのをまず、お示しをさせていただいた。再編についてはどこどこをいつということが出てくると思うが、どういった形になるか分からないので、敢えてお出ししていなかった。

○市民の方からの意見や要望を吸い上げていくと思うが、例えばA小学校とB小学校が、

平成 42 年に合併した段階でここって 1 クラスしか結局できないのだなというのが分かれば、市民の方も再編にはすごく納得していくと思う。その辺のイメージが今出ている資料ではわかりにくい。そのような資料が次回あった方が、目で見えて分かるような資料をお配りしてもいいのではと思う。

○今 20 代から 30 代の、10 年後に学校が再編された時に通う可能性のある年代の人にアンケートを取ってもらいたいと思う。個別にまわるのは大変だと思うのでインターネットを使って頂いてホームページなりで、率直な意見は収集しやすいと思うのでそういう意見は取っていただきたいと思う。

## 第2回 小学校再編に関する地域住民説明会（南小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月24日（火） 19時開始
- 場 所 : 南小松島小学校 2階 会議室
- 参 加 者 : 17名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会  
2. 教育長あいさつ  
3. 教育委員会職員紹介  
4. 配布資料確認  
5. 説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6. 質疑・応答（意見交換）  
7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○3校に最終的にすることを目指すということだが、大体どの小学校でまとめるというの  
は決まっているのか。

→（回答）

「実施計画」の中で具体の学校数をお示しさせていただくということで、今現在については  
はまだ詳細については決まっていない状況。

○既存の学校敷地で、浸水・土砂災害・津波などが無い場所はあるか。地震が起き、津波が  
来た時、殆ど浸水するのでないか。

→（回答）

場所についてはあくまでも「既存の学校敷地」からとなっているが、説明させていただい  
たように、当然防災上の観点というのは第一に考えていかなければならないということも  
あるので、そのような場所を今後考えていかなければならない。学校敷地というのは、原則  
論という話をさせていただいている。「安全上ここが適地」だといった場合は、既存の学校  
敷地にとらわれることなく、考えていきたい。

○学校が再編された場合、2キロから3キロ以内までの通学範囲、今実際南校で通学して

いる子でバス通になっている。徳島県でバス通の学校は殆どないが、3 km超えている子は、今何の補助もない。そのことについて今から検討されるのか。

→ (回答)

2 kmから3 kmで通学支援というのを学校再編に基づき設定しようという部分については、南校の子どもさん方がバスに乗ってきている距離が2 kmから3 kmというのがある。通学支援のやり方、果たして個人で負担いただくのか、公費で設定して構えていくのが適当か、というのが出てくる。南校では保護者負担をいただいて、市の方からもということで事業をやっている現状がある。新しい学校再編がこういった形の通学支援になるのかといったことは、南校の現状の通学支援の見直しも含めて考えていかなければならない。

○施設利用について文科省のもので示されたが、徳島県の県教委とかが調べた県独自の回答や、それに関する資料はないか。

→ (回答)

おそらく廃校後の利活用の資料はあるかと思うが、私どもの方で調査してまとめたものというのは手元に持っていない。一般的に県内でみると、勝浦町坂本小学校で宿泊施設という例もある。県西部、三好市・美馬市など市町村合併した後に周辺部の学校を休校して統合する、というケースがあるかと思うが、周辺部にある学校施設の利活用は多々あると思う。

○新しく校舎を作るかどうかは分からないが、いずれ建て替えなければならないのが何校もあるのに、予算はあるのか。

→ (回答)

学校再編によって新しくできる学校の校舎はできるだけ新しいものにしたい、というのが当然ある。11の小学校を更に建て替えるというのは、計画的にやったとしても非常に難しい。今回の再編について具体の数は別にして、一度にまとまって、というのはならないので、そこは計画的にということにはなろうかと思う。

○今ある11小学校がどの程度浸水してというのは、市のハザードマップを調べると分かり、その中でどの小学校なら使えるとか使えないとか、今の段階で分かっているのではないか。

→ (回答)

ハザードマップによると市内の大部分の地域に津波が押し寄せてくるというふうに想定されている。そういった津波対策を含めて場所も検討しなければならないということで、現時点では全部津波が来るということで学校を建てる所がないでないか、という議論が出てくる。津波が来るが、校舎の高さを変えろとか、若干津波が来る高さが低いとか、そういったことを総合的に考えて、新しい学校の場所を考えていかなければならない。現状では、そういったところしか申し上げることができないが、当然、安全・安心と浸水・土砂災害・津波といったことを踏まえると、そういったことを考えて場所も考えなければならないと思

っている。

○建物の更新時期だが、南小は平成 38 年度、もう 10 年後だと思うが、それまでに建て替えなければいけないということか。

→ (回答)

建築後 60 年というのが新たに立て替えをする目安として今後取り組んでいかなければならないということで、お示しの期間が絶対というわけではないが、「建築後 60 年＝老朽化」ということもあるので、一つの目安として考えていかなければならない。

○完成の目安が平成 42 年度とあったので、この完成の所だと老朽化が過ぎていると思うが、できるだけ早く行うという気持ちはあるのか。

→ (回答)

2030 年度までに 60 年を過ぎる学校が 6 校ある。あくまでも計画期間の設定としては、そこまでは学校再編をやり遂げたい、というところがある。「実施計画」の中で開校時期を設定していくことになるので、現時点では 60 年を過ぎる学校がたくさん出てくるので、できるだけその枠内でやっていきたいというのが現状の考え方。

○今から計画を実施しようと考えてから 2030 年までかかるものか。もっと早くできるのではないか。

→ (回答)

南中学校の例だが、学校の建設というのは学校を建てるようになってから、2 年から 3 年はかかる。当然大きい建物であるとその前に設計という話が出てくる。場所が決まってからも数年かかるということになる。この度の小学校については、それに加えて場所の問題という話が出てくるので、施設も古いいろいろな形で防災の心配という話もある。極力早くはかかりたいが、2030 年の中においてもいろいろな形で決めていかなければならないということもあるので、そのようなことを踏まえつつ、取り組んでいきたいと思っている。



### 第3回 小学校再編に関する地域住民説明会（北小松島小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月26日(木) 19時開始
- 場 所 : 北小松島小学校 2階 会議室
- 参 加 者 : 32名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画(案)  
③ 学校施設の利活用  
6.質疑・応答(意見交換)  
7.閉 会

#### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○1つの学校学年で先程の説明にもあったが、複数クラスが理想なのかなと、示されていたことは仕方ないのかなという思いである。お願いしたいのは、学校が統合になれば教育施設の面でも例えばエアコンの設置であるとか、子どもたちにとって過ごしやすいい環境を整えていただければと思う。

○第3回有識者会議での学校再編(案)の「再編内容①」だったら、再編場所に関して南小松島小学校に新校ということと、「再編内容の④」であれば小松島小学校に新たな建設となっているので、そうなったら北小松島小学校は既に廃校予定となる。それはどうなのか。

→(回答)

先程来壁に貼っているように昨年の有識者会議の中で3校程度というのであればどういことが考えられるのか、ということでこういった形のを提案させていただいた。ただ、その資料を見ていただいたら分かるように、あくまでも現状の学校施設を使った場合、ということ。これから実施計画を策定していく際にいろいろなそのようなことを踏まえて決定していくということになるので、今の段階で何がどうなることが確実だ、ということはない。この場では難しいというのが現状である。

○小松島市に言いたいのがこれからも全然子供を増やす努力をしないのか、ということ。他所の地域では増えているところも多々ある。藍住とか松茂とか。それに対しては努力をしてほしかったというのが一つ。

先程言っておられた新しい地域のコミュニティというのは難しいと思う。3校になった場合、その学校のある地域の方というのはふれあいやすいのだが、もしそれが全然違うのだったら、北校地域の方というのは、そこまで出て行ってふれあいというのは難しいと思う。

学童というのは国からも言われているように、地域と学校と協力しながら、というのが条件になっている、補助金をいただくことに関しては。

新しい所を探すという案もあるということ saying だったが、ここ北自体は津波の心配が多少ある。南校も浸水がすごい。勿論小松島は今でも水はけが悪いと言っているし、前が川。千代にしても全部重なるとしたら、複合型にして防災を考える上では、新しい場所を策定してほしいと思う。

○地域性というのを少子化、少子化でなくて総合的に人数をみる、2学級にするというのではなくて、北校の特徴を考えて残すという形でしていただきたいと思う。市営グラウンドの方も整備に入って防災拠点としての公園になるのであれば、防災拠点の近くにある小学校というのは津波の心配はあるが、避難場所としてヘリコプターも到着できるし、ドクターヘリなども日赤が近いのですぐ連携できる。

○3つに分けるとどんな風にしてもすごく中途半端だと思う。左上の5校ぐらいと下の6つぐらいというので一つずつそれぞれ2校ずつにして、新たな所を作って通学支援をする、スクールバスを走らせる、という感じならなんとなく理解できる。

既存の設備を使うのが前提というのは全然おかしいと思う。既存の設備どうというのなら、北小松島小学校は耐震もできて、42年ぐらいまでというので小松島小学校もいい。良い所が2つ近い所にあるわけ。他の所というと、遠い所がいっぱい集まらないといけない、そんなややこしいことだったら、おそらくその学校に来る人は不満が出るだろうし、説明もしにくいと思う。誰が考えても2つぐらい新しい所を作っていたら、既存の設備などと言わずにびしっと再編のことを考えていただきたい。

○スクールバスを出すのだったら1年生、2年生だけになるのか、1年生から6年生になるのか、3kmまでだったら、3.1kmはどうなるのか、保護者にとったらその辺のことを考慮してほしいと思う。

子どももすごく大事だが、その子どもを支えている親とか小松島を支えている職員たちもすごく大事だと思う。学校再編は子どもの事が1番、そこで働いている人のことが2番というふうな感じで考えていただいたらと思う。

○3校になるというのは校区が広すぎるので、子どもがどこで遊んでいるか、どこまで遊びに行っているかが分からなくなる、ということが起きてくる。放課後、安全面で子どもたちがどこで遊んでいるかが分からないことが起きた場合、どこがどういうふうに責任を取るか考えているか。

→ (回答)

現時点ではそういったことが起こった場合のことはまだ考えていない。校区が広がったケースの対処法とか何か策を講じるとか、他所の市町村のいろいろなケースがあると思うが、そういったことを参考にしながらその辺の対処はしようと考えている。

○一発にするとお金もかかるので、部分的に進めていく、という話にはならないのか。

→ (回答)

「実施計画」の中で計画的にということにおそくなるなかと思う。一発に3つ学校建てて、ということは現実的にもなかなか難しいのでは、ということで、その辺は整理をしながら、ということになると思う。

○12年先とかでなしに、もしかしたらもっと20年ぐらいかかったりとかいうことも。

→ (回答)

2030年度の完了を目途にしているということなので、今現在はあくまでも「基本方針」としては、ここを目途に目指していきたい。

○修繕に費用がなくプールが修繕できないのに、ここに色々書いている(通学支援・運行ルート・乗降場所・便数・運行時間)スクールバスの運行というのは必ずできるのか。

→ (回答)

今回の学校再編の大きな目的としては、良好な施設の環境整備というのがある。今なかなか11の小学校では市の方で手が回らないという部分も、学校が集約されればそういったことにも施設環境の部分を整えていくという所も大きなところ。通学支援・スクールバスをどういった形でどのように残すのかについてはこれからになってくるが、施設とか支援関係についても再編後については今現状についてはできていないが、新しい再編後については、良い方向になるように考えていきたい。

○スクールバスの話が出たが、今、現時点で南校もスクールバスが出ているが、天気によって公共機関やスクールバスが動かないといった時には、バス通学の子どもたちは学校に通えないので、臨時休校という形になっていると思うが、やっぱり通う距離が遠くなればなるほどその臨時休校となる率も高くなる。近くの子どもたちはバスが動かないけど警報が出ていないから通うことはできるけど、バスの運行会社の方が、こういう天気では運行はだめと判断したら、スクールバスを利用している子どもたちは学校に通うことができない

状況が南校では起きている。それで臨時休校になってという形の話をよく聞くが、そのようなことの対応はこれから考えていくことか。

→ (回答)

今の南小松島小学校のスクールバスの現状でいいのかどうかということも、新しい学校再編の際には考えていかなければならない。路線バスが休みだったら臨時休校、警報が出たら休みになってしまう、という現状というのは当然よろしくない。本当に新しい学校まで行く交通手段というのは、距離が長い子どもさんたちに支援をしていく方法というのは、これからいろいろ考えていかなければならないと思っている。

○どうしても3校でなければいけないのか、5校ではだめなのか、とかそこら辺のことももう一度やっぱりいろんな説明会の所に行って保護者の意見、地域の意見も聞いて検討してほしいと思う。1クラスには1クラスの良さがあってやっぱり子どもたち同士が思いやりがあって北校というのはできたので、中学校に行って人数が増えた途端、いじめの問題に遭遇して登校拒否をしている子どもたちも多々増えている。

在学する子どもたちを引き合わせて、いきなり新しい所で会わずとかでなく、学校のPTAの顔合わせとかそういうふうなデリケートな所にも気を遣って欲しいと思う。

複合型の施設とっていったが、どのような施設がいいのか、ということも有識者ばかりでなく、現場の意見を聞いていただけると嬉しく思う。

## 第4回 小学校再編に関する地域住民説明会（千代小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月27日（金） 19時開始
- 場 所 : 千代小学校 2階 多目的室
- 参 加 者 : 12名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
（事務局）
- 内 容 : 1. 開 会  
2. 教育長あいさつ  
3. 教育委員会職員紹介  
4. 配布資料確認  
5. 説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6. 質疑・応答（意見交換）  
7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○以前は5校というのは実際には絞れていたのか、どこが残ってというのが。実際3校ぐらいというのも今の時点では案としてはどことどこがということを考えているのであれば教えていただきたい。

→（回答）

平成24年8月の再編計画ではどことどこが一緒になると、どこにというのはある程度お示しをしていたと思う。昨年有識者会議を立ち上げ、この「基本計画（案）」を審議いただく中で3校程度であればどういったことが考えられるのか、ということの有識者会議で示した。あくまでも既存の学校敷地を前提に4パターン示したが、再編にあの中からはどうなるのかといったようなことは若干流動的なところも再編の場所によっては出てくると思う。

○今回複数クラスを重視されているのかなあとと思う。北小は20年位前から単独クラス、1クラスしかないと思うが、この20年何故放置していたのか。

耐震化工事、今回全ての小学校と一部の中学校されているが、再編するのだったら何故耐震化工事をしたのか。

3校に編成するという話だが、学童保育の今の水準を維持できるのか。ただでさえ、今の南小松島小学校の学童保育は受け入れ的な問題で大変と聞いている。これがもっと児童数

が増えるわけだが、それでも学童保育が維持できるのかと思う。そこまで考えているのか。

→ (回答)

当時から11の小学校ほぼ1クラスで、その当時はそういった形の教育があったが、更に子どもが減少していき、同じ1学年1クラスでも10人を割っていわゆる複式学級になる恐れがあるといったようなことが想定されるようになってきた。その中で、やはり教育という観点から、ちょっとでも人と触れ合って、いろいろな意味で2クラス以上ある方が教育としてはいいということで、平成24年8月の学校再編計画とか、今回の見直しに至っている。

耐震工事ができていないということは、仮に地震があった時には施設が崩れる可能性が高いということで、学校再編あくまでも中・長期的なところを見据えていくのだが、当然のことながら今の子どもさんも、行政としては守っていかなければならないというようなこともあるので、延命措置まではできていないが、少なくとも建物の倒壊を防ぐ為の措置ということで、耐震化工事の実施をさせていただいた。

再編後、今現在の8つの学童保育クラブをどうするのか、といったところが今後の課題として出てくるが、そういったことに対して、市の児童福祉課もしくは関係部局であるとか現在運営されている学童保育クラブの方々とも、市を交えて協議する必要があるかと思う。

○小学校と地域のコミュニティの問題があると思う。各小学校には必ず公民館というものが隣接しており、地域と学校の方々とのつながりを大事にしていくということがあると思う。今回再編3校という案だが、多分他のPTAの保護者の方たちの中では、どことどこが一緒になるというのが話題になっていると思うが、私の考えとして、既存の学校ではなく、新たな場所を探して、そこに全く新しいものを作った方がいいのではないかと思う。

→ (回答)

最終的にはどことどこが一緒になるのか、何校になるのか、ということが一番関心があるところ。中身については「実施計画」で、ということは今のところ予定している。そういったことに対してもいろいろ御意見をいただければ、今後の我々委員会での判断には十分確認させていただくことになるかと思う。

○35人学級で計算されていて、それは国で決まっているのかもしれないが、今千代小学校だと大体20人前後の学級で授業を行っている。先生が一人一人に目が行き届いていて、私はすごくいい感じかなと思っている人数だが、ここで小学校の35人は多いような気がして、人数については言う余地はないのか。

→ (回答)

学級編成の基準であるが、小学校の場合で同学年の児童で編成する場合、学級の人数は国の法律では40人と決められている。県の方では少人数学級を推進しているということで、35人が上限だというような拡大をしている。35人が上限とはどういうことかということ、35人だったら1クラスだが36人だったら2クラスになるということ。1学級当たりの人数が

35 人の場合だったら、1 学年 1 クラスで 35 人という話が出てくるが、36 人だったら 18 人の 2 クラスということ。

○3 校にするというので皆さん御意見がいろいろあると思うが、千代は千代のまとまり、南は南のまとまりで他とくっつく地区は今と同じが前提なのかどうか。千代は担任の先生以外でもフォローされていて、保護者としても見ていて安心という部分も感じるので、1 クラス 35 人と単純計算するのではなくて、低学年はもうちょっと小さいクラス編成を踏まえて入れ込んでいただければ、より安心かなと思う。

耐震化の建物の件だが、老朽化した学校のその後の使用について現時点で何らかの構想があるのであれば教えて欲しい。

→ (回答)

基本計画でもお示しているが、現時点では学校単位の再編であるということ。クラス編成で上限 35 人というのはあくまでも県の教育委員会がこういう推進をしている。人員配置については県の教育委員会の方になるので、市町村独自で手厚いという部分については、できるところとそうでないところの両方があると思う。

千代小学校にしても他所の体育館にしても施設が非常に古い。再編当初はそういった施設を利用している方がいるので、現状の考え方としては、施設の利用者がいる以上は維持する必要があるだろうというふうに考えている。校舎については、現状では学校だけしか利用していない。耐震化はできているが非常に老朽化しているということで、今後解体するのか、再利用するような補修をするのか、といったことはこれから考えていかなければならない。

○現在の子育てをしている方の意見が、私は子どもが 1 歳半だが参考になった。是非とも少人数学級というのは維持してほしいと思った。先生も子どもたちをしっかりと見ることができると思う。今いじめとかいう問題があるので、少ないほど目が届くという意味で是非これは維持してほしいと思う。

小学校の体育館は避難所として指定されているが、今後 20 年 30 年経ったら避難所としての機能が維持できるのか。

今保育所不足というのが進んでいると思う。幼稚園は殆ど活用されていない、維持できているところが少ない。最近、北小松島幼稚園も公民館に変わった。使わない幼稚園の施設を保育所として民間に貸すといったことを考えているのか。

→ (回答)

現状は緊急の避難所ということで、市の危機管理課の方から指定をしているという状況。避難所であるがために大規模な施設をメンテをして維持していく必要があるのか、地域のための避難所が周辺地域にあるのかどうか、そういったことも最終的には市の危機管理課も含めて協議・検討する必要があると思う。

幼稚園に関して、廃園してそのままの施設でまだ用途が決まっていない施設があるのは

確か。今現状、民間の保育所が小松島市には数か所あるが、認定子ども園化（認定子ども園：保育所の機能と幼稚園の機能を合わせ持った施設）ということで切り替えて移行しているような形になっており、まずは民間さんの事業展開、認定子ども園化というので状況を見ようというところ。

○「基本計画（案）」ということだが、有識者とかいろんな方で意見とかしていただいていると思うが、その中で地図を見る限りでは小松島市内には今現在 11 校あるのを 3 校にすると、結構 1 校当たりの範囲が広がるので、通学のためのバスであるとかそういうことを考えておられるみたいだが、この際中学校と小学校を一緒にするとかいう案や意見はなかったか。小中を今現在中学校は 2 校だが、小学校を 3 校でなくて思い切って小中同じ小松島中学校に小学校を併設する、小松島南中学校に小学校を持ってくるというふうな案とか、そういうものはなかったのか。私の考えは、もう 3 校にするならいっそ 2 校にしたらいいいんじゃないかと。

→（回答）

小学校の数が少なくなったら、小中連携とか考えていかなければならないなあという意見があったのは確か。いろいろな意見が出て結果的にはこういう大きな柱から言えばこうなっているが、ここまでに至る経緯というのはさまざまな御意見をいただいている。

○千代小学校はすぐに行ったら徳島市になるので、千代小学校区に住んでいてもその辺の小学校に行ったり、市内の中学校に行ったり、やっぱり制度的な問題でそういう方が結構おられるので、高校の学区外も含めてその辺も一緒に考えていただきたい。



## 第5回 小学校再編に関する地域住民説明会（児安小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月30日（月） 19時開始
- 場 所 : 児安小学校 1階 会議室
- 参 加 者 : 21名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他7名  
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6.質疑・応答（意見交換）  
7.閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○2030年度の生徒数が1,125と出ているのが、その予想に関してちょっと甘いのではないかと思う。だいたい全国的には今から10年後には生徒数は半分になるのに、小松島がそれよりも3分の2、今から12年後に残っているのは甘いのではないか。実施時期をいつ頃と考えているのか。

→（回答）

昨年度、「基本計画（案）」を作る時の数字から比べると、当然人口減少というのは加速をしている。どんどん子どもさんの数が減っていくということで、そういった状況には違いないという認識である。「基本計画（案）」の中で2030年というのをお示しさせていただいているが、そこまでには完了したいと考えている。

○児安は残してほしいが、児安がなくなるのであれば、公民館の管轄にして体育館の管理とかそういうのは、建物の管理を公民館でやって、修復して利用していく。公民館は地域性があるので残してもいいような気がするのだが。公民館は小学校と分けて考えた方がいいのでは。

→（回答）

小学校再編に併せてもし仮に小学校が3校になった時に公民館も3館にするのかといっ

た連動性は併せては行っていない。今現状では施設とかそういった事業については切り離して考えていくというのが1番のベストの選択ということで教育委員会も考えている。

○新しい校区設定して全市内の校区割りをもういっぺん考えるべき。それでなかったら、今のままでいったら南校のところだけがものすごく増えて、後のところってものすごく通学距離に差が出てくると思う。

→ (回答)

学校単位の再編であるとか、1回シャッフルして全体のというのものもある。が、あくまでも基本は今のところ11小学校の校区というのをまず前提にしていく方が、いろんな意味の地域活動という事についてもまず校区単位で行われていて、これからの小学校再編を進めていく原則的な考えとしては、校区単位の方が非常に住民の方とか地域の方も理解がしやすいのではないかと。そういったことで、校区単位を進めていくという基本的な考え方にさせていただいている。

○2030年度の児童数の数字が上がってきているのか根拠がまず何かということをお願いしたい。

この時点でこの3校、4校にしますというのをしっかり出していただきたかった。

「パブリックコメント」はどのような形で募集されるのか。

→ (回答)

1,125人という部分については平成23年から28年までの3月末までの住民基本台帳の年齢別の人口をもとに5年間の年齢別の人口動態率、それと死亡率によって平成29年3月末以降の年齢別の人口をまず推測している。そういったことで、0歳児の人口については各年度の15歳から49歳の女性の推定人口数と、平成27年度の合計特殊出生率、これ1.45という数字があるが、これに基づいてまずは推測しているところ。

3校程度にしてどことどこのどの小学校の1つの括りをするためには、やはり1つの基準がある。有識者会議の時には1つの基準線というのをしてそれについては何パターンかお示しをしており、市のホームページの「基本計画(案)」の中にはそういった資料を付けさせていただいている。

「パブリックコメント」する時に、いろんな手順とどのような方法があるかという事について詳しくお伝えするが、広報誌であるとか、ホームページ、そういったことにはなろうかと思う。

○通学方法及び安全性の確保ということで、「原則徒歩とするのはおおむね2kmから3kmの範囲内、それを超える場合は通学支援を実施します」と書いてあるが、2kmから3km以内というのはどういう基準で決められたのか。

→ (回答)

今、小松島市内で南小松島小学校、路線バスが走っているところであるが、市の方でバスを借り上げて小学校1年生・2年生の子供さんを対象に赤石駅から南小松島小学校の間まで専用のバスを貸し切ってやっている。そういった子どもさんの平均距離というのが、だいたい2キロ半くらいということが今現状である。新たに学校再編をやった場合についてもその範囲というのが一番妥当なのではないだろうか、ということでこういった形の一つの基準ということでさせていただいている。

○現状、南小学校の子が1年生の2kmの子が皆歩いているかどうかはよくわからないのだが、実際2km、3kmを小学校1年生の子が歩けるのか。この範囲までというのが決まっているのか。その時にスクールバスの対象じゃないから歩いていきなさいというのはすごく過酷だと思う。夏は猛暑だし冬も寒いし、朝も早く出ないといけない、そういった時にコミュニティバスとかスクールバスとか、どの範囲まで広げるのかちょっと具体的に示していただきたいと思う。今でなくても結構だが、具体的に示していただきたいと思う。

→ (回答)

学校の場所が決まった段階でいわゆるどこからどこまでが通学支援として必要なのか、出てこようかと思う。おっしゃっていただいたような意見を配慮する中で考えていきたいと思う。

○この着手・作成が、もしどんどん決まっていって平成31年度に話が進んでいたとしたら、平成32年度くらいからはもう建て替えとか、新しいものを建てるとかいうふうになるのか。それとも、もうちょっと先になるのか。

→ (回答)

1つの例として小松島南中学校の例があるが、中学校を建てるのに設計だけでも2年はやはりかかった。基本設計とか実施設計とか。一旦設計ができて、いわゆる建設工事に着手して2年ということになるので、そういったことを踏まえて先程のこれからでいうと、平成32年度にはスタートできるのではないかと。なってくる。詳細な計画というのは、「実施計画」を作ってスタートはどこになるかといえば、これからいうとスムーズにいくと平成32年ということになってくるが、さっきお話しさせてもらった南中学の場所が、市の土地があったというところ。小学校再編はどういった場所にどういったところもあるので、そんなことを踏まえて、土地があったとしても南中学の場合も含めて4年はかかっている、ということにはなるので、少なくともそういったことを踏まえて、開校時期を決める必要があるのかなあというのが今現状での考え方。平成32年度スタートしてすぐ1、2年でというのは校舎を新しくする場合というのは、当然なかなか厳しいなというところもある。最終的には、学校再編の場所をどうするのかにもよって変わってくるというところもあるが、最速でも場所があつて4年はかかるという現状。

○では、もし新しい場所に建てるのではなく、例えば児安とか南とかそこを広げて新しく建てるなら、建て直す時にその時に通っている子どもたちはどこか違う場所で学んだりするのか。

→ (回答)

いろいろなケースが想定されると思う。もし仮に児安小学校に新しい学校を建てるという、一般的には「運動場」という話が出てくる。今の既存の施設の広さでいいのかとかいろんな要素も出てくる。他市の学校ではグラウンドに校舎を建てているところもある。そのような場合には、校舎を建て替えている時にグラウンドが使えるとか使えないとかといった話になってくる。児安小学校も建て替えをしようとした時に、そのようなことを加味する中で、いつ新しい学校が開校するかということも考えた上で、「実施計画」で開校時期とかを見極めていく必要があると思っている。

## 第6回 小学校再編に関する地域住民説明会（芝田小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年7月31日（火） 19時開始
- 場 所 : 芝田小学校 2階 図書室
- 参 加 者 : 24名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8人  
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6.質疑・応答（意見交換）  
7.閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○私は結論から言うと、今回の再編案は基本計画に反対の立場。1学年複数学級にしたらいいようにいうが、そうすると今、複数学級あるのは、南小松島小学校だけで、あとの10校は1学年1学級。そしたら、そういうところでは現状として教育効果が上がっていないということか。

→（回答）

決して今の単学級がダメというような、そういうことを申し上げているのではない。将来、人口減少とともに子供さんの数が少なくなってくれば、各学校の人数、今の11小学校の人数が今より少なくなる複式学級の懸念があるので、学校の再編を実施したいということで、今現在の複数学級がある学校とそうでない学校を双方とも否定しているということでは決していないので、その辺誤解がないようお願いしたい。

○複式学級だったらダメだということか。教育効果が劣るということか。

→（回答）

複式学級よりはクラスを作って同学年の子供さんが多い方が教育効果が図れるということで、そういうふうに申し上げているので、決してダメではないが、良好な教育環境を確保できるということで説明をしていると御理解いただけたらと思う。

○複式学級になる云々ということは、この説明資料の中のどこに書いてあるのか。

→ (回答)

私の方で懸念として説明を申し上げたということで、資料については、全て明記はできていない。今回の資料は、「基本計画(案)」のあくまでも抜粋・概要の資料なので、その辺についてこの資料に書いてないから、それを俯瞰する意味で私どもが説明を申し上げているというところで重ねて御理解をいただきたいと思う。

○一番大事なことを書面に書いてなくて、口頭で言ったことが重要な項目と言われても、ちょっと納得できない。

○学校がなくなるということは、地域社会がなくなるということにつながる。私たち子どもの教育というのは別に学校だけの教育ではなくて、地域社会とともにあるからこそ成り立っていると思っている。地域との交流が無意識のうちに凶られていることによって、人間形成とか、そういうことに大変大きな影響力があるのではないかと、思う。

今、私たちの国というのは、数合わせだったり合理性であったりだけを考えて物事を進めようという傾向が大変多くなっている。そういうことというのは、私たち子どもたちを養育していく方からすれば、もう少し柔軟性を持って、ただ合理的な部分だけ数合わせだけで教育というものを語ってもらいたくはないと思っている。やはり地域があってそれで学校、学校があって地域があると思っているので、やはりそういうことというのは、配慮しながら学校の編成を考えていただきたいと思う。

○やはり人数が多ければ良い教育ができるということではない。地域性が小学校にはついているというか、ずっと伝統がある。小さい学校でも先生の教育方針によって、目の届くところまでしていただけている。

田野の住民は皆、それぞれ近くに山がある。それで津波等がくれば山に逃げ、上がったなら一次避難場所としてはいけるが、やはりこの体育館も避難場所として、小松島全体で考えてみても避難場所として市の方から提供されている建物というものが非常に少ないと思う。この3日の日に市の連合会の総会があるが、その場でも私も申し上げようと思うのだが、やはり最近になってここ30年ぐらいに南海トラフの大きな地震が起こるのは7割強というふうなことで言われているので、防災上の点から考えてやはり再編というふうな形になってくると、地域は地域の人で避難場所が欲しいので、教育委員会の考え方もわかるのだが、やはり避難の事もご一考いただいて、今後の学校の施設等地域住民が利用できるような形で、そこらもこの再編の計画にはめていただきたいと思う。

○校舎の老朽化が進んでいる。差し迫っているということであるのに、既存の学校施設を

使うというのはちょっと疑問ではないのか。それからこういう休校というか、廃校になった校舎の再利用についてもきちんとした老朽化に対処した形でなかったら再利用できない。そこらのはっきりとした方針というか。

3校程度ということはこういう地域の説明会を経て、いろんな意見があった場合に4校に、あるいは5校になるという可能性もあるということか。

→ (回答)

学校の校舎、非常に老朽化しており、60年になるということで、あくまでも原則論として60年云々の校舎については敷地は使うが、原則として建て替えということになってよいかと。ただ、その学校敷地についても今現在の11小学校の敷地を使うのかどうかといったようなことも、これから敷地選定についてもまず考えていくということで御理解をいただけたらと思う。

「基本計画(案)」には3校程度と程度表示。最終的にはそれが2校なのか3校なのか4校なのか、また5校なのか、いろんな考え方ができると思う。そういった考え方ができるということで、こういった説明会をさせていただいているところ。現状ではあくまでも程度表示ということで詳細は今後考えていくということ。

○去年の夏に東北に行ってきた。大川小学校にも行ってきた。先程の地震のあった時に皆さんこちら(あいさい広場や恩山寺)の方にたくさん避難をしてきた。本当にたくさん各地見学をしたが全てなくなってしまって、高台を作るため前の山一つをベルトコンベアで全部運んで新しい土地を作っているところ。私たちのところには確実に南海トラフがやってくるということを考えて、新しい学校をどうしても3校にするというのであれば、バス通学するので、こちらの方に来てもらってもいいということになる。現在ある学校の人数の多いところに集めようというのではなくて、子ども達の安全とかを考えるとむしろ学童数が多い所よりは学童数が減っている地域、そこに新しい学校を、ここに作れとは言わないが、同じようにお金を使うのであれば、そういうことも考慮しながら新しい学校を作っていたきたいと考えている。ただ単に数が多いからそっちの方に合わせて作ろうという考えではなくて、やはり地震・災害とかそういうものを考慮の上で新しい学校の敷地を考えていただけたらと思っている。

○「基本方針」の計画の期間のところ、2030年度の完了を目途となっているが、現在小学校1年生とか2年生とかのお子さんが同じ学校で卒業できない可能性はあるのか。

→ (回答)

南中学校は28年の4月に開校したが、開校と同時にいわゆる坂野中学校と立江中学校は閉校してしまったわけだが、立江中学校に入学したのだけれども、卒業は南中学校でしまった、というようなということも起こり得ると思うので、開校時期によってどうしてもそういったことが起こり得ると現時点では思う。

○計画の期間についてだが、42年より先に再編するということはあるのか。

→ (回答)

2030年度完了目途ということでやはり学校を建設するとなったら、一発にというわけにはいかないで、「実施計画」をする時には段階的な開校ということが出てくると現時点では考えている。

○今、現在も芝田の学区にいて他の学校に行かれていますお子さんもすごく多いと思う。学校が再編した後はそういった地域がまたがってしまう、こちらがいいとか人数が多いから南に行かせるといった方も正直いらっしゃると思う。そういうのは許していくのか。それと今、簡単に許してしまっているという理由はこういったところにあるのか、疑問にあるので、今までのこととは話がそれてしまうが、教えていただけたらと思う。

→ (回答)

各小学校についてはそれぞれ校区というのがあり、いわゆる校区というのは住所地域ということになる。校区外の学校に行くためには理由というのが当然あり、いわゆる自由という話ではない。いわゆる保護者の方の勤務の関係であるとか、学校終わってから帰る場所であったり、いろいろな要素があり、そういった理由がある中で認められているということ。

○1学年1クラスの学校があってもいいと思う。さっき言われていた様に、少ないなら少ないなりに先生が目が届いていいなど。あえて2クラスというのはこだわりすぎても結局、こだわったところで偏ってしまってこっちは1クラスになってしまってこっちは3クラスになってしまった、というような、果たしてそういうこともないのだろうかということが疑問としてある。

○10年もあれば市の方で新しい企業を誘致するとか、日亜が工場を作って若い人がどんどん来てバイパスから北側に社宅を建てたらものすごく変わる。そしたら徳島のベッドタウンとして、この農業地帯の田野、芝生に住宅を建てるような計画を、小松島市全体を活性化させようと思えばいろんな方策がある。この教育委員会の計画を見て、市会議員とか市長とか、そこらあたりの連携というのがどうなっているのか。

→ (回答)

市の方も人口推計値を用いているんな対策をやっている。そもそも、この学校「基本計画(案)」というのは教育委員会が作っているが、当然、市の方も第6次総合計画であるとか、地方創生のということで、いろいろなまちづくりに対して事業をやっている。小松島の人口が我々行政の人間が頑張るとどんどん増えていった時には、また当然学校の数も増えるということにつながってくるのかな、ということになるので、十分連携はしているのだが、そういった中で学校再編は考えているということ。



○人口や子どもが減っているのは事実なので、複式学級というのは私もいいとは思わないが、クラス替えができる2クラスぐらいあっても私はいいと思っている。今回のような3校という案も出てきたので、ちょっと人数合わせというのではなしに、多い学校があってもいいし少ない学校があってもいいので、3つにして等分するという考えではなしに、その適地を考えて、やはり4校、5校の方がいいかな、という考えが私にはある。

○学校が地域コミュニティの中心を担っている。新しい地域コミュニティができるとおっしゃるが、それは少し違う。学校が3つになったら若い世代の人が学校の近くに家を建てると思う。地域に昔から脈々と繋がってきた伝統文化行事ってたくさんあるが、それを担っているのは子どもたち。その子どもたちが村から地域からいなくなるということは、本当にそういう大事な伝統文化行事がなくなっていくこと。たくさん子どもたちが通えばいい学校ができる、という考えではなくて、地域の中で育つ子どもたちのあり方というものもしっかりと考えていただきながら、小松島市民がどういう生き方をしていくのかということまで考えながら学校というのはあるということだと思う。

○今までこういう風な説明会を他でもしてきたと思うが、雰囲気的にはどうだったのか。半分ぐらいでも大体の流れというのは、中田から始まって児安とか南校以外の地域であったら、どういうことがあるのか。

→ (回答)

今日で松中校区が全部終わるが、やっぱり雰囲気はいろいろ。若い方の意見であるか、当然公民館とか地域活動をされている方とか、これから家を建ててまだ子どもさんが小さいが学校に上げるのに対して、不安なこととか、いろんな意見がある。今回こういった「基本計画(案)」を作る際に有識者会議というお話もさせてもらったが、この有識者会議の中でも当然、保育所の保護者の方、幼稚園の保護者の方、小学校の保護者の方、また地域の方とか大学の先生とか、一般公募の市民の方とか、いろんな方がこの有識者会議に参加をいただき、この案ができた。その有識者会議の中でもいろんな御意見があり、そのいろんな御意見というのはこの「基本計画(案)」の附記事項というようなもの、こういった意見もあったということをお示しをさせていただいている。私ども教育委員会としても今回の地域説明会の時に、そういった御意見になるだろうとは正直なところ。ただ、あくまでもこの「基本計画」、基本的な考え方だけなので、これから学校再編の詳細を決めていく「実施計画」の中では、地域的にもいろんな意見があると思っているので、そういった意見をやはりお伺いする中で、小学校の再編を考えていかなければならないなというふうには思っている。各地区いろんな地域の状況も当然あり、学校に対して同じ考え方を持っている方もいらっしゃるし、地域によってはさまざまな考え方を持っているということもある。その辺が一概には言えないというところで、意見があったということで御理解をいただきたいと思う。

○最後にお願いしたいが、くどいようだが、こういうふうないろんな意見をまだ検討する必要があると思う。そこら辺を出していただき、ただ数だけ合わす再編ありきはないように検討していただく、ということをお願いしたらと思う。

## 第7回 小学校再編に関する地域住民説明会（立江小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年8月2日（火） 19時開始
- 場 所 : 立江小学校 3階 図書室
- 参 加 者 : 19名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会  
2. 教育長あいさつ  
3. 教育委員会職員紹介  
4. 配布資料確認  
5. 説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6. 質疑・応答（意見交換）  
7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○何人を下回ると複式学級になるのか。

→（回答）

「二の学年の児童で編成する学級」として「16人」と書いているが、一般的には、小学校においては、二つの学年を合わせて16人以下になる。ただし、「1年生については8人以下」というのがこの前の表（スクリーン）に書いている「小学校の学級編成基準」で、あくまでも下の米印にもあるように、国が法律で決めている一つの基準になる。16人、ただし1年生については8人、というのが今の国の基準になる。

○この小学校再編について各小学校の高学年の子とかに説明したか。

→（回答）

学校の子どもさんについては、こういった説明はしていない。

○私も小松島市の小学校出身で、主人も小松島市の小学校出身で、この度、中学校が合併したことでたまたま同じ中学校が合併したが、やはり思い出を語るに当たって伝統を大事にしていくすごく良い機会にもなった。次また小さい子ができるとまた話は違うが、多分、一番関係してくるのが今の小学校に通っている子どもたちの子どもだと思う。良い機会だと

思うのでこういった話をちょっと子ども向けにして、この学校づくりに何か意見をもらう何かをしていただけたらと思う。

○人数が少なくなっていくが、一応、10年後までにするような感じなのか。それより早まるとかいうことはあるのか。

→ (回答)

一発に再編という話にはなかなかならない。ただ、いずれ何校に再編するにしてもその中で詳細の計画というのは実施計画で置いていきたいなということで、現時点では、2030年度の完了を目指すという大枠だけということで、御理解いただきたいと思う。

○大体、目安として、どの辺の地域を集めて「3校」と計画されているのか。

→ (回答)

今現状で、どことどこが合併してどこを想定するのかといったことは、今の段階ではまだ具体には決まっていない。御意見をいただいて、最終的にはそういった御意見を踏まえて「実施計画で」と考えているので、学校の数については、今現在は「3校程度」という形の表記にこの案の中ではさせていただいている。

○3校にするにせよ、色んな案があるにせよ、莫大なお金がかかるがそれは大丈夫か。それによって市の税金とかがどんどん上がっていくと、どんどん小松島から(人が)いなくなるという、悪い方に転がっていかないようにしてくれないと、ずっと(小松島に)いるつもりでいる身としては困る。どのくらいの費用がかかって、どうするのが一番良いのかをまた考えていただけたらすごく有難いと思う。

→ (回答)

やはり学校再編、特に南中学校の例で申し上げると、南中学校の場合では30億円というお金がかかっている。ただし、国の補助金なりをいただいてというところもある。ただ、30億というお金は莫大で、補助金ばかりでないのも現実。その中では当然税金も当たっているというところで、小学校を再編するに当たって、具体的にどういったものを作るかによって金は変わってくるが、やはりそのくらいのお金が事業としては当然必要になると。でも今市内でいろんな事業をやっている。そういった市内の大きな事業との兼ね合いの中で建設の時期とかを合わせて考えていかないといけないというのが現状で、そういったことにも配慮しながら進めていきたいと考えている。

○2点お聞きしたいが、「学校再編の必要性」で児童数が減少することで「良好な教育環境を維持できない」ことについて詳しく説明をしていただきたいのと、もう一つ、立江小学校は指定避難箇所になっているけど、再編とこの両方の機能は継続されるのかどうか。教育委員会の問題ではないかも分からないが、それをどうお考えなのか今の段階でお聞きして

おきたいと思う。

→ (回答)

まず1点目の「良好な教育環境」というお話になる。基本的には、多様な人々をつながりながら学ぶ力が必要で、いわゆる、「コミュニケーション能力」について将来2030年の世の中として想定される社会においては、子どもさんが「人」「地域」「社会」と色んな関りを持つことで新たな創造性や価値を生み出していくことにもつながってくる。これからの世の中を見据えた中で、集団での学びの機能というのは、「共感」とか「自信」とか、やはり人数が少ないよりは多い方で議論や意見交換をする方が子どもたちの「成長」にとっても良いのではないかと。学びを深くできるのではないかと。こういったことで、規模が大きい方が多くの子どもさんを通じていろんな経験ができるのではないかとということで、私ども教育委員会が目指していきたいというところがまず1点。

2点目は「施設」のお話だったと思う。おっしゃるように、学校施設は特に建物を含めて市内の防災上の一時避難施設になっている。校舎は老朽化しているが、そういった地域的な事情・状況も多分いろいろと出てくると思うが、そういった状況も踏まえてやはり利活用というのは考えていかなければいけないのかなど。先ほど担当からの説明でも、校舎についてもそういったいろんなことを考えながらいかなければならないと申し上げているので、詳細は「これから」ということになろうかと思う。

○質問が悪かったかも分からないが、「良好な教育環境を維持できない理由」をお聞きしたい。

→ (回答)

クラスも少ないし子どもさんも少なく、これからどんどん減っていくことが想定される中で、あくまでも適正規模として基本方針で目指すところは、「18人以上で2クラス」ということで、極端な話、18人で2クラスと言うと36人になるので、ある意味、同級生が多い方がそういった良好な教育環境が保てるのではないかとということで、こういった案をお示しさせていただいている。

○例えば、人数が多い方がいじめは少ないとか、そういうのは合理的な説明ができるのか。

→ (回答)

具体・客観的にはなかなか(説明)できない。先ほどの説明にあったが、もし仮に学校でいじめが発生した時にクラス替えによって新たなスタートを切れる。もしそういうことにこれらなっても、学年2クラスになればそういう対処ができるということ。当然おっしゃるように、複数だったら「これは絶対こうなるんだ」というようなことは、明確にはなかなか申し上げことはできないが、あくまでも課題に対してはクリアすることができるということで、それをもって良好なというか、新たな教育環境を提供することができる方法として、「良好な教育環境」ということでお示しさせていただいている。

○多ければいい面もあるかも分からないが、私が小学校にいた時も人数が多かったためにクラスで大人しくて目立たない子どもは、同じ学年でも「そんな子おったっけ？」っていうのがあった。小さいいじめがあったりしても、先生も気が付かないでそのまま我慢して過ごしてしまうようなこともたくさんあった。少人数では、コミュニケーション能力は多い人数に比べると弱いかもしれないが、少人数の学校には少人数の良さがあるので、そういうところは大切に思っていて、「多い方がいい」という意見だけではないということを知っていただけたらと思う。

○前の人も言った「良好な教育」は、それはやはり人数だけではない。やはり、教育環境であったり、地域との結びつきであったり、それから地域のバックアップであったり、そういうものが良好な教育環境を作っていくのだと思う。人口面の致し方のない面もあるだろうが、教育委員会にこれを言っても仕方がないけど、将来的に小松島市も人口が増えていくような施策等を通して子どもの数が増えていく、いわゆる、「子育て世代」が増えていく。小松島市全体がそういう環境を作っていくこともまた大切なことだろうと思う。そこら辺も市全体で考えていくことが大切なのかなと思う。

○前の資料に「クラス替えができない・・・課題」とあるが、いじめがあった場合、クラス替えをして課題を解決しているのが今なのか。

→ (回答)

前のその資料については、あくまでも今現状のことではなく、「こういうことができる」ということ。いじめがあった時の対処方法は学校現場でもいろいろあると思うが、少なくとも1クラスだった場合については、クラス替えができないという話が当然もともとあると思うが、複数クラスの場合はこういったことが可能であるとか、そういったことで御理解をいただきたいと思う。

○「選択肢」というだけですね。先ほどから人数のことを皆さんおっしゃっているのは、ここが立江小学校で1クラス20人以下のクラスばかりだから。おそらく、今何も問題がなくて、嫌な友達がいたとしてもちゃんと話し合いでの解決をずっと多分しているから、すごく今で大満足。でも、市の事を考えると、先生の数や専門の先生から教えてもらえるメリットを考えているので、ちゃんと理解して協力していきたいなという姿勢で多分来ているのだと思う。

クラス替えの選択肢は、それを重きに置いて欲しくないのと言わせていただいた。多人数になってもしっかりと一人ずつ見ることができ、先生の育成に頑張ってもらいたいと思う。

→ (回答)

先ほどいじめの話があったが、クラス替えをして解決をしようということではない。やは

りそれではいじめの根本の解決にはならない。それはもっと違う話であって、でもいろんなグループ集団を考えていくと、クラス替えによって少し離れることによって少し友達関係がまた変わったりして、それが解決につながることもあるし、一つのきっかけということでお考えいただければなと思う。

## 第8回 小学校再編に関する地域住民説明会（新開小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年8月3日（金） 19時開始
- 場 所 : 新開小学校 3階 図書室
- 参 加 者 : 25名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1.開 会  
2.教育長あいさつ  
3.教育委員会職員紹介  
4.配布資料確認  
5.説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6.質疑・応答（意見交換）  
7.閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○皆さんがお座りの椅子の背もたれに貼っている「具体的な再編（案）について」は一步踏み込んだ内容で、「基本計画」策定後の「実施計画」の話になってくると思うが、「3校程度」という話が出た。例えば今現在の松中校区の方では、松中校区の方で1つの小学校、現在の小松島南中学校の方で1つの小学校、地域で言えば「1小1中」という形。よく郡部の田舎の方に行くとこの方式が見られたりする。「1小1中」になった時のメリットやデメリットにはどんなものがあると教育委員会は考えているのか。

→（回答）

全国的な例で見るといろんなケースがあり、ケースによってさまざまなメリット・デメリットが出てこようかと思う。あくまでも現時点での一般論でしか申し上げることができないが、「小中連携」「小中一貫」ということがまず挙げられる。一般的にはよく言う「中1ギャップ」。小学校よりは中学校の方が多人数なので環境の変化が出てくる。そういったことを少しでも解消するよう、小学校の段階から中学校との連携を図ることや教育課程においても中学校に上がるための準備を特定の中学校と連携を図りながら行うといったことが十分あるかと。ただ、近くにあるから小中連携できるかと言えばそうでもなく、連携のための推進計画なりを改めてまた策定する必要も出てこようかと思う。



現時点でも中学校2校と小学校11校があるわけで、決して連携を図っていないわけではないが、小学校2校に対し中学校1校で連携しているケースや、当然今おっしゃっていたような、小学校1校と中学校1校とで連携しているケースなどいろんなケースがある。最終的には、小学校が何校になるのかも含めて、少なくとも「連携はできる」と。小学校が3校でも4校でも。小学校が仮に4校に対し中学校2校でも当然連携は図っていけるということで、お互いの数が少なくなることによって改めてそういった連携の推進計画をまた考えていく必要があるということで、今の段階では具体的に色んなケースが想定されるが、そういった推進計画の中でより結びつきを強くしていくことは、小学生もしくは中学生にとっても非常に良い事なのかなと考えている。

○完成時期は平成42年度ということだが、例えば3校を同時に完成させるのか。それとも児童数の減少率が高い地域については5年先・6年先に完成してもいいんじゃないか。

→ (回答)

計画期間については前(スクリーン)の表にもあるように、「2030年度の完了」という形になるので、当然、学校数によって施設更新も含めて新しい学校を作っていかなければならない。一発にとというのは現実的にも難しいので、そういったことを踏まえて、学校再編計画の「再編」が「2030年度の完了を目途」にしているということで、当然この中にいろんな開校時期とか、そういったことを実施計画でお示しすることになるかと思う。

○個人の意見としてこういった再編は仕方がないというか、もちろん、人口、特に子どもの数が減っていることに関しての施策どうこうという話はとりあえず置いておいて、現状のこの数字だけを見ると、校区が非常に広域化するというのは受け入れないといけない、というようには私自身は思っている。で、その中での「通学支援」「スクールバス」というところで、子どもの通学に関してはやはり親からすると非常に不安なところがある。ちょっと遠くだとバスで体力的な低下というのもすごく今最近問題になっているので、心配される方もいろいろ賛否があると思う。その中でこういった「通学支援」をしている他市町村の前例など、もし今の「通学支援します」というのとプラスアルファでそういうお話がもしあれば教えていただきたい。

→ (回答)

「基本計画」の中で「通学支援」に関する考え方をお示しさせていただいており、「運行ルート」「乗降場所」「便数」「運航時刻」をこれから決めていきましょう、もしくは準備委員会とかそういった中でいろいろ決めていきましょう、といった話をさせていただいた。それは何故かと言うと、当然、場所が決まらなければ通学支援の方法もないため。皆さま方も御存知と思うが、小松島市内には路線バスがいろいろと走っている。大きく広い道についてはそういった公共交通機関がまず前提条件としてある。それと、そういった状況の中で学校再編後の場所はどこになるかといったこと。それと、2km~3kmを超える場合は支援を考え

ていくという考え方がある中で、こういったスクールバスが考えられるのかをまず基本に考えていかなければならない、といったようなこともある。そういった状況の中で学校再編の事例については、他市町村でも多分いろいろあり、小松島のように路線バスが走っている場合での再編のケース、もしくはそれも踏まえたスクールバスというところもあろうかと思うので、今現状こういった形が最も良いのか悪いのかなどの議論については、これから検討していかなければならない。現状では「これがベストですよ」「ベターですよ」というところまでは至っていない。

## 第9回 小学校再編に関する地域住民説明会（坂野小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年8月6日（月） 19時開始
- 場 所 : 坂野小学校 3階 音楽室
- 参 加 者 : 12名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他7名  
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会  
2. 教育長あいさつ  
3. 教育委員会職員紹介  
4. 配布資料確認  
5. 説 明  
① 小学校再編に向けて  
② 小松島市立学校再編基本計画（案）  
③ 学校施設の利活用  
6. 質疑・応答（意見交換）  
7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○「児童が減少している」という問題に関しては、教育委員会そのものの問題ではないと思うが、減少しているというのは、結果論で川下の話だと思う。川上の話は何かと言うと、人口減少の前に人口が流出していることが問題として大きい。市のホームページを見た時に「現象」として起こっていることは、20代後半の女性や30代前半の女性あたりの年代の方は、市外、端的に言うとな徳島市と阿南市にかなり流出している。これは何かと言うと、やはり子育て支援。医療費とかの関係もあると思うが、その辺の手厚さの問題で減少していることが予測される。教育委員会だけでなく「横断的なチーム」を作ってこの少子化の問題を考える必要があるのではないかと。児童福祉課、秘書企画課あたりは当然として、この流出している原因に何らかの手を打たないと、もっと加速度的に若い女性の方と子どもの数が減少していくのではないかと思ったので、その辺を総合的に行政としてお考えいただけたら。

通学支援に関してだが、保護者の方に余計な手間暇をいかにかけずにこういった手段を講じられるかを、もっと具体的などころで、タイミングが合ったところでお考えいただけたら。

廃校になった学校の利用状況については、大体、社会体育で使われているということだが、少子化に伴い高齢化してくると、既存の介護系サービスの利用だけでは及ばない方もいたりするので、そういった方が使えるような方向性であるとか、あるいは、何らかの商業

施設としての活用の仕方も一つあるのではないか。生活インフラの整備という点も勘案しながら廃校の利用ということを御検討いただけたら。

○「学校再編による学校数」については11校を3校にすると。1学年の生徒数を35名、もっと少ない所も全国的にあるのではないかと思うが。結局、根本的には、何人でなければいけないという問題ではないと思う。国と現場とは相当ズレがあるのではないか。生徒数については発想の転換をしてもらい運営をするようお願いしたい。

それと、この市の人口について。大体6割くらいになると。市も結局、人口が減ってきたら財政的に税収も減るので、後々お金がかからないような建物にして欲しい。

○この坂野地域にどのような周知をしたのか。たった11名。11名で、説明会終わりましたので学校再編を推進していきます、という形を取っていくつもりか。

→（回答）

各11小学校区で説明会をするに当たって、各小学校の子どもさん全ての方に案内文書を配布し各家庭に届くようにした。それと、市内には小学校の他にも就学前の子どもさんが通う幼稚園、保育所、認定こども園があるので、そこに通う子どもさん方に案内文書を配布させていただいた。地域の方には、6月の公民館館長さんの研修の機会に、公民館館長さん宛に複数配布した。その他にも広報誌で扱ったが、極力奮って参加をいただけるよう策は講じたわけだが、結果として、参加の方が十数名ということで、おっしゃるようなところもあったかも分からない。

ただ、こういった形で「基本計画（案）」を教育委員会が策定している現実もあるので、可能な限り説明申し上げてご理解いただくスタンスなので、よろしくお願ひしたいと思う。

○地域住民は基本。たった11人を相手に説明会をしたとして、これで今後推進していく方法を取るのかと聞いている。

→（回答）

教育委員会としては、教育環境をやはり良くしたいということで、「基本計画（案）」でお示しをしている部分については「推進していきたい」というスタンスに変わらない。おっしゃられることはそのとおりかとは思いますが、広報誌でもこういった形でお示ししている。今後、「パブリックコメント」で計画についての意見をいただけるような手続きを取るよう考えているので、そういった手続き等を踏まえ計画策定に向け努力していきたい。

○とにかく、各地域において住民の皆さんの意向をきちんと踏まえてこの学校再編等についてきちんとしていく。ぐるっと回ってきたからこれで終わりというような問題ではないと思う。中学校について前も一般質問で言ったが、距離が6kmある。スクールバスと言っても、文科省にしたら「6km以内だったらスクールバスは出せません」って。送り出す親

御さんの気持ちになったらどうか。まして、今の南中学校については、実際、あそこが一番危ない津波が来る場所。そういう場所で建設ありきでして、教育委員会としてはただ単に学校再編やったらいいというような、例えば、11校を3校にしたらいい、2校にしたらいいと簡単に言うが、実態としては交通の支援という問題が出ている。きちんと一つずつ皆さんの承認をもらわずに「はい、行きますよ」と。そういうような観点しかないのだから。それで学校再編できるのか。

→ (回答)

皆さんも考えてもらえれば分かると思うが、「再編」というのはいろんな思いがあるから、いろんな人に意見を聞いて集約をしていくと。今日はその第一歩。「基本計画(案)」があって、今状況としてこういうお話をさせてもらい、そして今具体的に参加者の方からも踏み込んだ教育環境というものをもうちょっと考えるべきでないのかなど。スクールバスの件に関しては、単にスクールバスというだけの対応ではなかなか利用する保護者の方の意にはそぐわないという、ここだけでなく違う場でもいろんな意見を承るのが今日で、坂野小学校区が9番目の場であると。そして、そういう声を聞いた上で、さらには担当の方からも説明したけど、「パブリックコメント」によって参加できていない人からの意見も聞いた上で、それを集約し、もちろん議会にも説明をさせてもらい意見を聞いた上で、我々はその具体的な計画を教育委員会の方で原案を作って、議会にも説明させてもらって、そして出来上がったものはまた来年度、今は具体的にどこどこがいつまでにどうなるというふうな計画ではないが、それを求めて今こういう場を設定させていただいている。「これで終わりです」とかいうのではなく、スタートしたところでそれぞれの地域での声を聞いた上で、集約して次年度につなげていくと。そういう面で御理解をいただけたらと思う。

○今、わが市には160億も余って借金がある。ごみ問題についても35億円。もう200億になっていくような状態で、今後、小学校の再編等についていろいろと話をしても、次から次に箱物を作っていくことで、建設費等その他いっぱい出てきたらどうするのか。まして、廃校と言っただけではいけないけど、そういう学校がいっぱい出てくる。

もう一つは、学校教員がいる。教員を削減して、教育委員会にどれほどのメリットがあるのか。

それともう一つは、箱物を作って小松島市の財政が今後持つのか。

それともう一つ、交通支援の問題。文科省は、6km以内だったら不要としている。南の小学校だけでも、櫛淵、立江、新開、坂野、和田島の5校あるが、どういう所でどういう建設をしていくつもりなのか。

→ (回答)

まず1点目、教員を削減したらどういうメリットがあるのかという話については、教員は徳島県の教育委員会で採用されているので、人件費は市とは全く関係はない。だから、そういった人件費のメリット云々については、市は当然算出をしない。

それと2点目、市としてもいろんな事業がある中で学校建設には非常に多額の費用がかかるが、大丈夫かといった話。学校施設は非常にもう既に老朽しているので、現状でも、今の施設に対しては投資をしていかなければならない時期が当然来ることを勘案する中で、新しい学校をどのタイミングでどの時期にするのがいいかを、財政支出を伴う時期というのが当然あるかと思うが、そういったことも踏まえて考えていかざるを得ない。

3点目、通学支援の話。「通学支援」は当然どういった支援の形がいいのかどうかをこれから考えていかなければならないところと思う。おっしゃるように距離が離れている。南中学校は6km。小学校の児童さんだったら尚更「歩いて行きにくい」となってしまうかと思うので、当然、通学支援を実施する場合はそういうことを踏まえて、ということになるかと思うが、まだ今のところでどういったことがいいのかということについては、保護者の方も含めて考えていかなければならないと認識はしているので、その辺御了解をいただきたい。

○地域の住民として、坂野小学校がなくなったらどうなるんだと。中学校がなくなり、小学校もなくなったらどうなるかと思ひ、そういう状態で、私は「反対」ということで言うてやろうと思ひてやってきた。ところが、どこどこが合併してとか、まだそんな状態ではないらしい。11が3つになると言ったらもう、ちょっと…。

○率直に言ひて、坂野小学校はどうなるのか。今のところどんな計画をしてるのかを、言えるか言えないか分からないが、来ている人はそれが一番だと思ひ。坂野はどこどこ合併するのか、榎淵まで入れるとか、お聞かせ願ひたい。

→ (回答)

「まだこれから」というのが正味のところ。地域に行けば「どうなるの」という話はある。くれぐれも誤解がないようにというところだが、「基本計画(案)」では、学校再編に対する基本的な考え方をお示ししている。私ども教育委員会としては、子どもさんの数が非常に少なくなることが十分考えられる中で、小学校には100年とかの歴史があることは当然存じているが、今の状態を保つことができなくなる、というところを一番恐れている。そういったことを踏まえながら、基本計画でも7項目設け、場所、学校数、配慮すべきことなどを7つの基本の方針としてお示しさせていただいていると。

今回はそういった考え方をまず原案として出させていただき、地域の方々の考え方やいろいろ御意見でも当然構わないので伺うと。最終的には、各11小学校とも詳細は「実施計画」でお示しする形になろうかと考えているので、今たちまち小学校ごとにどういう原案があつてどうなるのか、という状況ではないということで御理解いただきたい。

○はっきり申すが、もう少し町内に周知をしてほしい。10人やそこらに説明し、それで教育委員会としてはこんなんやってきたよ、これから推進派で頑張るよと。こうなつては困ると私は思っている。

## 第10回 小学校再編に関する地域住民説明会（和田島小学校区） 概要

日 時 : 平成30年8月7日（火） 19時開始

場 所 : 和田島小学校 2階 会議室

参 加 者 : 33名

教育委員会 : 教育長 他8名  
(事務局)

- 内 容 :
1. 開 会
  2. 教育長あいさつ
  3. 教育委員会職員紹介
  4. 配布資料確認
  5. 説 明
    - ① 小学校再編に向けて
    - ② 小松島市立学校再編基本計画（案）
    - ③ 学校施設の利活用
  6. 質疑・応答（意見交換）
  7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○平成42年度の完了を目途に学校再編という事だが、どのくらいの期間で完了すると考えられているのか。

→（回答）

2030年度までには再編を終わらせたいというのがまず大枠の考え方であるが、始期を決めるのはまだこれからになる。そういったスタート年度や、どことどこが一緒になった学校がいつどこに開校するのか、といったような詳しいことは実施計画の中でお示しすることになる。小松島南中学校も一旦始めてから、基本設計が1年、実施設計が1年、建設し始めてからおそらく2年ちょっとかかっているの、計画がスタートしてもそういったことがある。

○2030（平成42年）に「1,125人」になる根拠を示していただきたい。

また、一番初めは11校を5校であったところ、児童数が減ってきた関係で今の計算では小松島全体で3校くらいになるということだが、反対・賛成は別にして、「本当にできるのか」というのが我々住民としての心配事。その坂野中学校の校舎や体育館を壊すわけでもなし、どう使用しようかということもない。

→（回答）

2030年は「1,125人」という子どもさんというのはどういった割り出しをしているのかに

については、平成 23 年から平成 28 年までの、3 月末の住民基本台帳の年齢別人口をもとに、5 年間の年齢別人口動態率や死亡率によって、平成 29 年 3 月の年齢別人口を推測しているもの。0 歳児の人口については、各年の 15 歳から 49 歳の女性の推定人口と平成 27 年度の合計特殊出生率の「1.45」という数字によって推計している。

今現在、坂野中学校、立江中学校の校舎は解体にかかっている。それは、耐震補強工事をやっていなかったことを踏まえて校舎については、老朽化と地震が来たら壊れてしまう可能性があるということで、今解体をしている。残る施設については、今でも坂中グラウンド・体育館含めて社会体育の利用があるので、当分の間は、そういった形でやはり運営をしていく必要がある。緊急避難所になっている学校施設も多々あるので、そういったことも踏まえないといけない。小学校施設については、耐震強化はできている。坂中、立中とは違い補強はできているが、ただ年数が経っており、老朽化していることは違いない。そういったことを踏まえて今後考えていく必要があると今現状は考えている。

○今日の説明会は、和田島の住民の何%に周知して開いているのか。私は通知をいただけてないが、他人さんの通知を見て自主的に来させていただいた。何%の人が知っているのか。

→ (回答)

この度の説明会は、和田島小学校区だけではないが、まずは小学校の子どもさんを通じてこの案内通知を出させていただいた。それと地域の公民館の方々と、幼稚園についても子どもさんを通じて保護者の方、それと公立・民間を問わず保育所・認定こども園。ご案内文書については、小学校、就学前、公民館、PTA 関係を含めて市内で約 2,700 通配布させていただいた。あと、「広報こまつしま」の 7 月号と市のホームページでも。各戸々のお住まいの方それぞれにはいってはいないが、できる範囲の通知の仕方ということで、今回そういった形をとらせていただいた。

○和田島の場合は複式学級になる可能性が非常に薄いと思う。2クラスにするのは理解できないことはないが、地域住民のコミュニティという点については、それは極端に悪くなることが予測される。地域の活性化ということも考慮しながら4校でも5校でもいいではないかというのが私の意見。

○2校もしくは3校と言えども大体、和田島地域が組むのは、和田島、坂野、新開、立江、櫛淵になると思う。案の方を見ても多分そうなるように思われるが、説明の中で学校再編の「場所」は「既存」ってなっているが、真ん中あたりで言ったら、新開と立江。既存の中ほどと言ったらそうなるが、今の意見から言ったら、「和田島に」っていうことも考えられるということか。

→ (回答)



今現在この「基本計画（案）」でお示ししていることが全て。原則論として、原則、今の学校敷地から。ただし、安全・安心のため、津波とか防災対策といったことを踏まえて、これから考えていくというのが今の時点での回答ということで、御理解いただきたいと思う。

○江戸時代からあった地震においても、和田島町には津波は来たことがない。広報には6メートルの津波が来ると言っているが、徳島に6mの波が押し寄せてきても、和田島町にはそこまで押し寄せて来ない今までは。和田島町というのは、防災関係においては非常に有利なのではないかなと思っている。それと自衛隊がある。自衛隊の職員さんを和田島町に置いてもらって即応できるような体制を築いていったらいいのではないかな。

○今子育てをしている一保護者だが、「市内で3校程度」というのが妙に引っかかっている。きっと南地区が1校になるんだらうなと生徒数とかを見ていると思うが、南に全部まとめて1校にしてしまうというのは、通学的にすごく支障が出てくると思う。「2km～3km以上は通学支援」ってなっているが、和田島小学校から坂野小学校までの間が1,700m程度。そこまで歩ける子って非常に少ないと思う。せめて2km以上は通学支援が必要だと思っている。そうでないと親が車で送迎することになって非常に負担がかかる。毎朝、毎日行くものなので。という点からも、小学校は近くであってほしいと思っている。「3校程度」となっているが、「4校」というのもあり得るか。

→（回答）

あくまでも「3校程度」ということで、具体的に何校になるのかはこれから。「基本計画（案）」の中では3校程度あったら複数のクラスが保てる学校規模になるが、詳細の学校数というのは、こういった御意見をいただいて最後は決めていくということで、一般的に「程度」なので、2校、3校、4校と、一般的に考えられるのかなといったところだが、現状ではまだこれからということで御理解いただきたいと思う。

○市の財政も厳しいと伺っているが、子育て支援の一環として極力多めの数を残してほしいと思っている。少子化、一人の女性が生む子どもの数が減っているというよりも、若年層自体が減っている。女性、若い世代が今でも住み続けたいと思うのは、やはり教育施設の充実というのが第一だと思う。そういった点も考え慎重に、完了時期という目標もあると思うが、「段階的に」というのも含めて考えていただきたいと思っている。

○再編の話は仕方がないとして「場所」の選定の話になる。和田島小学校には近くに自衛隊があることから、冷暖房も何年も前から設置し、自衛隊の方から補助金が下りるような小学校。結局、市もお金がないのなら和田島小学校を残して自衛隊の補助金を利用して立派な校舎を建てるという案もあると思うが、そういうお金の補助金の面というのは考慮に入れてくれるのか。

→ (回答)

市の財政運営を踏まえ、学校を建てるということになれば、防衛省の補助金ではないが、文部科学省の補助金もあるので、その辺については2次的、3次的要素の中では充分考えていく必要はあるのかなとまずは思うが、まず一番には「子どもたちのために」ということを念頭に考えていきたいと考える。

○小学校は教育委員会、学童クラブは児童福祉課、と担当課は違うが、小学校が再編になるという、小学校に併設されている学童保育ももちろん一緒に引っ付いていくことになる。実施計画とか合併協議会を組む中で学童保育の関係者も是非参画させていただきたい。もしくは運営委員会なり、実際に学童で働いている放課後児童支援員も是非入れていただいて意見を汲み上げていただきたい、というのが一つのお願い。

○平成 29 年 10 月に有識者会議を設置しました、と書いてある。和田島町からそういう再編にかかる有識者の方って、名前を言ってくれとは言わないが、何人くらい和田島町から選出していただいているのか。

→ (回答)

まず、有識者会議の委員さんは 12 名で、各地域からの委員さんはいない。大学の先生とか、PTA の会長さんとか、そういった方が主で、「各地域」ということになると 11 小学校の地域からということになってしまうので。今回の有識者会議は、まずは一般公募の方がお一人。それと保育所、幼稚園、小学校からの PTA の代表の方、公民館の代表の方、地域の方として民生児童委員の方、それと学校の校長先生や大学の先生といった方を含めて全 12 名で有識者会議を構成していろいろ御議論をいただいた。

○公募の方法はどういう具合に、何の広報に出て、どういう形でして、誰が選定をしたのか。こういう交流会を丁寧に時間かけて和田島町の全員に、関心がない人は来ないが、全員の方に周知徹底をするような方法で次の会をよろしくお願ひしたい。

→ (回答)

まず 1 点目。有識者会議の公募については、先ほどから説明会の案内通知を全員にというお話があった。我々、教育委員会も含めて、市の広報誌「広報こまつしま」が全戸に配布されているはずであり、この度の説明会についても各ご自宅には必ず広報誌が届いているので、そういった中で説明会の御案内を差し上げていることがまず 1 点。そこは御理解をいただきたい。

それと、「公募」については、その公募も広報誌を通じて昨年 8 月から、確か 9 月に公募を行った。その内容については、原稿用紙おそらく 400 字で学校再編に対する考え方をまず書いていただくものだった。それに数名の応募があり、市の教育委員会の中で公募の選定委員会を作り 1 名を選出した。

○再編の「実施計画(案)」を作るのは12月から3月の間のところに入っているけど、この案を作るまでの間、全地域での説明会が終わった後で、例えば小学校のPTAの保護者から代表で意見を出してもらえる方を募集して、直接、今現状で子育てをしている方とか、それ以外の方でも結構だが、こういう説明会で意見を求めるのではなくて、もっと近しい所で意見を聞いていただける方法をお考えになられてないか。

→(回答)

今回、11小学校区でということ、市P連の方に間に入っていて、そういう方を募集していただいているいろいろな意見交換するというのも、要望なりいただければ当然すべきであろうとは考えているが、その辺についてはまたちょっと実施方法等を考えていきたいと考えている。

○できるだけ直接話を聞いていただける場の数をもっと増やしてほしい。この短時間ではなかなか皆さん思いがあっても、こういう場ではなかなか言えない方もいらっしゃると思うので、そういう場を作っていただけたらと思う。

→(回答)

手続きとして一番最初に「パブリックコメント」というお話もさせていただいた。自由な御意見をいただいて、それに対し我々教育委員会が回答させていただくようなこともあるので、またそういったことも御利用いただくというのも一つの手なのかなと。御意見をいただいたので、そういったことをまたいろいろ考えていきたい、というように思っている。

## 第11回 小学校再編に関する地域住民説明会（櫛淵小学校区） 概要

- 日 時 : 平成30年8月8日（水） 19時開始
- 場 所 : 櫛淵公民館
- 参 加 者 : 20名
- 教育委員会 : 吉岡教育長 他8名  
(事務局)
- 内 容 : 1. 開 会  
2. 教育長あいさつ  
3. 教育委員会職員紹介  
4. 配布資料確認  
5. 説 明  
①小学校再編に向けて  
②小松島市立学校再編基本計画（案）  
③学校施設の利活用  
6. 質疑・応答（意見交換）  
7. 閉 会

### 地域・保護者等から出された主な意見と回答

○小学校を大体3校にする予定と言われたが、小学校校舎は建て直しではなく、今の建物を活用するのか。

→（回答）

どの小学校もやはり古いため、基本的には、再編とともに新しく更新をしていきたい。

○「実施計画（案）」が出る頃には3つ（校）の選定は決まっているのか。

→（回答）

学校再編の詳細については「実施計画」でというお話をさせていただいた。その「実施計画」の中にそういったことを（盛り込むよう）今現在は考えている。

○私の子どもが今1歳だが、今の段階で櫛淵で同級生が0人。1人ではかわいそうなので、はじめから分かっていたらもう小学校はそこ（統合校）に行かそうと思う。なくなる小学校があるところは親がそう考え、人口が極端に減っていくという問題点についてはどうお考えか。

→ (回答)

再編の具体的内容によっても左右されることになろうかと思う。場所の問題とかはいろいろとあると思う。原則論として「既存の学校敷地から」ということをこの「基本計画(案)」の中にお示ししているが、防災的な見地から、新しい場所も当然視野に入ってくるかと思う。再編の具体的内容によっては、少々フォローアップが必要なのかなと、今現時点では思っている。

○場所を決めるという話になると思うが、場所を決める際の「基準」はどうするのか。

→ (回答)

今のところは、大きなポイントとして、「災害に対してより安全性の高い場所」ということになろうかと思う。これは有識者会議の中でもいろいろ議論があった。既存の学校用地というのは、小松島市の地勢的な問題も多々あるかと思う。この「基本計画(案)」の全容は今ホームページで公開中だが、有識者の中でもハザードマップを載せてほしいという意見があった。既存の学校用地は意外と津波の浸水被害を受けるところが殆どということもあるので、そういったことも含めてどの場所が一番良いのか、まずは既存の学校用地から探っていきたい。より安全性の高いところがあれば、そこも含めてということなので、今のところ、学校の場所はポイントから言うと、「安全・安心の確保ができるような場所」が候補地になる。

○11 小学校の場所で再編することになった場合、それは発表前・後に住民向けの説明会がちゃんとあるのか。

→ (回答)

冒頭の「スケジュール」の説明でもお話したように、今現在も「基本計画(案)」で、まずは一つの考え方を作ってお示しをさせてもらっている。実施計画についても当然、「実施計画(案)」ということで、答えの案を持ってまたこういった11の説明会を当然させていただく予定であり、最後の出来上がりの状態でやはりこういった地域説明会でまた御意見を伺うことにはなろうかと思う。どうしても原案がなくては議論の内容に乏しいなということで、詳細の計画案ができた段階でも、また説明会を開催させていただきたいと考えている。

○幼稚園の統合の時もいろんな噂が流れ、11ある小学校の中に民有地があると。それに毎年多額の借地料を払っているということも言われたことがある。市の財政も厳しいから櫛淵は閉鎖の対象にあがっていくと言われた。今も市の財政は当然きついとは思いますが、再編というのはそういうことを全く無視することになるのか。

→ (回答)

いろんな事情が当然ある。借地料を払っている場所は他にも多々ある。基本的には借地の解消が一番理想になるが、「借地」だから再編するというのではなく、あくまでも今回、冒

頭で申し上げた計画の趣旨のとおり、子どもさんの数も減りますので、やはり切磋琢磨できる学校を作っていきたい。

それと、ここずっと榑渚小学校は子どもさんの数は少ないが、「少ないから再編する」のではなく、やはり小松島市全体で少なくなってくるのがこの「基本計画（案）」の大きな理由である。市内の子どもさんが公平で公正な教育を享受できるような学校教育、それと施設面も含めてというところが一番大きな趣旨と考えているので、御理解いただきたい。

○3校同時に開校という形になるのか。それとも、例えば中学校再編時の話のように、話が付いたところから随時やるのか。

→（回答）

冒頭、詳細は「実施計画」でという話をした。当初の平成24年度の学校再編計画には実施計画的なものではなかった。「地域の合意ができたところから」という計画の立て方にはおそらく「実施計画」はならない。学校再編は施設を作るだけではない。いろんなことでいろんな調整をしていかなければならないため、一度にはなかなかできにくい。

○榑渚と和田島と立江とどこかが一緒になり、新開小学校がその土台になる話ができているらしい、という話を聞いた。それは主婦の方々の噂話ということでしょうか。

それと、既存の小学校で防災や津波、土砂崩れの心配が全くない学校というのはない。新しい場所に移る時にそういう場所を踏まえてと言ったが、中学校が新しくなる時もそういう観点で新しい中学校を建てたのか。

→（回答）

1点目の話は、横にも（壁面等に資料「具体的な再編（案）について」を掲示）資料がある。これは昨年、有識者会議の開催時に、学校数が3校程度ならどうということが考えられるかを示す際に用いた。この「基本計画（案）」は3校程度ということで、中学校校区を中心に2校、3校、4校という原案。あくまでも、現存の敷地を使ってある一定の基準で統廃合を考えるならこういった形になるというもの。当然、新しい場所を考える必要があるかも知れないという中では、どこを中心にどういった学校にするかというのは御意見をいただきながら、最終的には「実施計画」で決めていくということにしかならないと考えている。

2点目としては、南中学校については、少なくとも場所の問題というのは多々あったと思う。南中学校の校区というのは、坂中と立中の両校区の中心的なところで、公共の用地もあったことからあのような選択になったのかなと思う。ただ、場所的にあのような場所なので、建物の中で防災対策を施していると。普通教室については、2階以上ということで、川に近いことについても施設で配慮している、というのが現状でなかろうかと思う。

○平成42年度までに例えば榑渚小学校と立江小学校が先に合併したり、3校にするまでに今ある既存の学校が先に何校かくっつき最終的に3校に減っていくような合併の可能性は

あるか。

→ (回答)

非常に現実的なご質問と思う。ただ、学校再編を「誰のため」という視点から言うと、「子どもさんのため」となる。そういった段階的な再編というのは、子どもさんにとってもやはりよろしくないのかなと思う。その都度環境の変化が起こるので、極力避けたいと今現時点では考えている。

○もし反対の場合、反対もできるのか。計画に榑渕町だけ入らないとか、全部の計画を止める力みたいなのは。コミュニティ、政治で…。

→ (回答)

何をもって反対かということがあろうかと思う。説明会は今日で11回目になる。少なくともこういった説明会に参加されている方の中には反対の方が絶対にいる。反対基準というのは非常に難しい部分があるが、まずご理解いただきたいのは、やはり私たち教育委員会は「子どもが第一、教育第一」という中でより良い教育を市内全域で築いていきたい、これが大きな趣旨であり、その趣旨を御理解いただきたいというのが今回の説明会の大きな趣旨である。

それと、部分的に反対であった時、地域的に反対であった時にどうなのかという話は、我々の立場から言えば、そういった地域の方にも御理解をいただきたいというのが、今現状思うところである。やはり地域性があり、地域によってはそういった御意見をいただく。ただし、地域の学校というのは分かるが、やはり教育という部分から言えば、市内にいる子どもさんに対しては一つのより良い教育環境を提供していきたいというのがこの学校再編の趣旨ということで、その辺についてはできる限り追及していきたい。

○人口減少とか、子どもの教育環境とかが一つの理由になっていたと思うが、人口が増加するパターンとかはないのか。最終的には進むと再編の方にやはりなるのかという感じ。いかに反対していいか分からない。

○小学校を小さくして少人数で。統合・合併は仕方がないと思うが、小さい施設で少人数を見るという計画はできないのか。

→ (回答)

子ども教育委員会が何を懸念しているかと言うと、少人数ではやはり限界があるだろうと。子どもさんの数が減っていけば、やはり複式学級になってしまう可能性がある。そうすると、教員・先生の配置とか、一定の配置基準がある中で先ほどからクラスの数とかそんな基準をお示しさせていただいているが、やはりある一定の規模は保ちたいというのを将来に向けて子ども教育委員会は考えざるを得ない、と現状では考えている。

○私は櫛渕で生まれ、子どもも櫛渕の小学校にやりたいと思っている。このままでは人口が減少するという話も聞くが、全国のニュースで、子どもを地域に取り込むためとか、新しい若い世代を取り込むために何らかのサービスをしている自治体があって、人口が増えてという話をよく聞く。小松島市の取り組みとして、そういう取り組みをしているか。

→ (回答)

市の取り組み、いろんな計画・施策をやっている。ただし、悲しいことに、小松島市だけでなく、徳島県全体の人口がどんどん減ってきているという現実がある。他所の自治体さんに比べてやはり財政が乏しい。市全体で見ると財政力が弱いということで、なかなかできていないところ、目に見える形では分からないところがあるが、市としてはいろんな事業、いろんな施策はやっているということで、まずは御理解をいただきたい。ただし、それにもかかわらずどうしても世の中、日本国中人口が減っているという中で、「教育」で何ができるかを考える中で、施設も含めて、いわゆる、再編によって一回そういった環境を作り直すということが大事なのかなあと、今現状は考えている。

○もし将来的に3校に統合になり学校が縮小されるとなれば、通学方法、スクールバスなどの通学支援は当然あると思うが、放課後の子の部活動とか、時間帯がどうしても生徒によって変わると思う。その辺も大丈夫なのか。

→ (回答)

通学支援については、今回の「基本計画」ではこういった基準でしか設定していない。詳しいこと(時間・ルート・乗降場所・便数・運行時刻)を具体的に決めていく必要が当然あるのかなと。ただし、その学校の状況と新しい学校ではどういったことをやるのかといったようなことを含めて具体的に決めていくことになろうかと思うが、現状では、場所とかそういったことは何も決まっていないので、少なくとも計画ができ、その開校までの間にこういったことはどんどん詰めていくことになるのかなと思う。

○南中校舎(施設)内の安全という話だったが、あの時はちょうど東北の震災の関係があったので、あの場所は殆どの親(当時の現役の保護者)が反対していた。当時、私も参加した設計の説明会では、施設内の2階以上に入っていたら大丈夫だという説明を受けた。設計の方も実際にそういうことをおっしゃった。では、過去あそこに、過去の南海トラフ地震でどのくらいの高さまで水が来たのか聞いたら、「そんなの知りません」と言われた。それと、漂流物に対してその校舎の窓の外壁は強度を増しているのだから、漂流物来ても全然大丈夫だと言われた。では、どういう漂流物を想定しているか聞いたら、答えは返って来なかった。申し訳ないが、今回はそういうことも言えるようお願いしたい。

○この櫛渕小学校で子どもがお世話になって本当に素晴らしかったと思う。地域とのつながり、住民とのつながり、人数は少なくとも複式になるような感じでありながらも、学校全



体が兄弟のような家族のような中で教育を受けてきたと思う。担任の先生方も大変だったと思うが、そういう中で素晴らしい教育を受けたと痛感する。

櫛淵は人数が少ないから人数の多いところへ移転する可能性が多分にあることを危惧するが、今現に櫛淵から南中学校に通学している生徒さんを見ると、大変だなというのを目の当たりにする。スクールバスの運行なんかも考えられているようだが、乗せたり降ろしたりに保護者が行くとか、また教職員の方の手間を取らすとか。津波とか想定外のことが現に日本のあちこちで起こっている。津波とかが来た場合、櫛淵ならすぐ近くの山に逃げられる。市内の他にそういうところがあるのかなと思ったりする。